



100年の歴史と技術を礎に バイオなど新分野へ挑戦

液体をかき混ぜる攪拌(かくはん)は、化学、薬品、食品、化粧品、製紙、水処理などさまざまな産業で必須の技術であり、日常のあらゆるものに関わっているといっても過言ではない。昨年、創業100年を迎えた攪拌技術のリーディングカンパニー、佐竹化学機械工業の西岡光利社長に、今後の事業展望について聞いた。



攪拌技術研究所

「攪拌」はあらゆる分野に必要とされる技術です。当社の攪拌技術も接着剤や塗料、せっけんなど生活に密着した分野から、化学工業、下水道処理・工業用排水処理など環境に関わるものまで、時代の変化と共に発展してきました。現在はファイナケミカルやバイオにまで及んでいます。こうした進歩も確かな基礎技術がなければ生まれません。

当社は「創造的精神を尊敬し、果敢な行動力を駆使して、常に業界の模範たれ」という創業者による経営基本方針があり、その理念に基づいて、真摯に基礎研究を進めてきました。その象徴といえるのが「攪拌技術研究所」です。攪拌専門の研究施設として東洋初の施設を87年に設立し、さらに2016年には大型試験槽を配備したテストヤード、数値計算を行うCAE計算室、クリーンルームなどを備え、リニューアルしまし

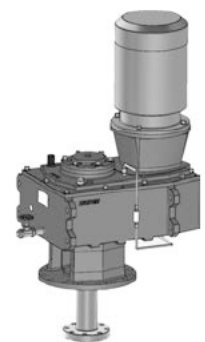
確かな技術を支える 攪拌技術研究所



佐竹化学機械工業
代表取締役社長
西岡 光利氏

た。計算・実験し、計測したデータを分析し、また実験するという試行錯誤が、技術革新に結び付いています。

「次の100年」のために、攪拌装置と環境試験装置に続く新たな柱として考えているのが、培養装置と分級機です。培養装置では、微生物培養や動物性細胞培養などがあります。近年特に再生医療向けのヒトiPS細胞培養に特化し、従来の回転式攪拌では細胞にダメージを与えてしまうため、上下動の攪拌を可能にした「VMFリアクター」を開発しました。また、iPS細胞由来血小板の研究では、京都大学CiRA江藤教授らの研究や大学発のベンチャー企業であるメガカリオン(京都市)が進めるコンソーシアムにも参画し、昨年、内閣府主催の「日本オープンイノベーション大賞」で科学技術政策担当大臣賞を共同受賞しています。



サタケマルチSミキサー

再生医療、分級機を 新たな柱に育てる

果敢な行動力を駆使し 次の100年を切り開く

こうした技術力を支えるのが人材です。創業以来、ファミリ―精神を大切に、社員を家族と考へて、事業に取り組んでいます。家族だからこそ厳しく指導し、目標に向かっていく、そんな精神が根付いています。

「サタケマルチSミキサー」は、オイル漏れを完全に制御し、医薬品、化学、食品などの分野での汚染防止対策を施しました。もう一方の環境試験装置には、エアコンの性能を測るカロリメータがあります。当社のカロリメータの再現性はプラスマイナス1%以内と高い水準となっています。

攪拌と環境試験 2事業でシェア獲得

事業の大きな柱は、先ほど挙げた攪拌装置と環境試験装置です。攪拌機の主力製品である「サタケマルチSミキサー」は、オイル漏れを完全に制御し、医薬品、化学、食品などの分野での汚染防止対策を施しました。もう一方の環境試験装置には、エアコンの性能を測るカロリメータがあります。当社のカロリメータの再現性はプラスマイナス1%以内と高い水準となっています。



環境試験装置の一例(自動車環境試験室)

そして次の100年への思いを込め、11月に「佐竹マルチミクス株式会社」に社名変更します。技術のバックボーンを力に、これからもあらゆる企業のニーズに応え、高品質な製品を作り続けていきます。

海外展開も積極的に推進していく予定です。1979年の韓国から始まり、現在、韓国、中国、台湾、タイ、マレーシアに10拠点を構えています。今年新たにマレーシアに製造販売会社を設立し、主要2事業である攪拌機と環境試験装置において、アジアナンバーワンを目指します。培養装置、分級機についても、グローバルニッチトップに育て上げたいと考えています。

今後、攪拌技術を生かす分野としては水処理に注目しています。メタウォーターと共同し、消費エネルギーを40%削減できる消化槽攪拌装置を開発し、19年に日本産業機械工業会から優秀環境装置表彰「日本産業機械工業会会長賞」を受賞しています。今後も省エネルギー、環境問題をはじめ、SDGsにも対応した製品開発を進めていきます。



VMFリアクター



<https://www.satake.co.jp>

広告

企画・制作=日本経済新聞社
イベント・企画ユニット